

5 - 1 東海・南関東地域の地震活動（1986年5月～10月）

Seismic Activity in the Tokai and Southern Kanto Districts, May - October, 1986

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

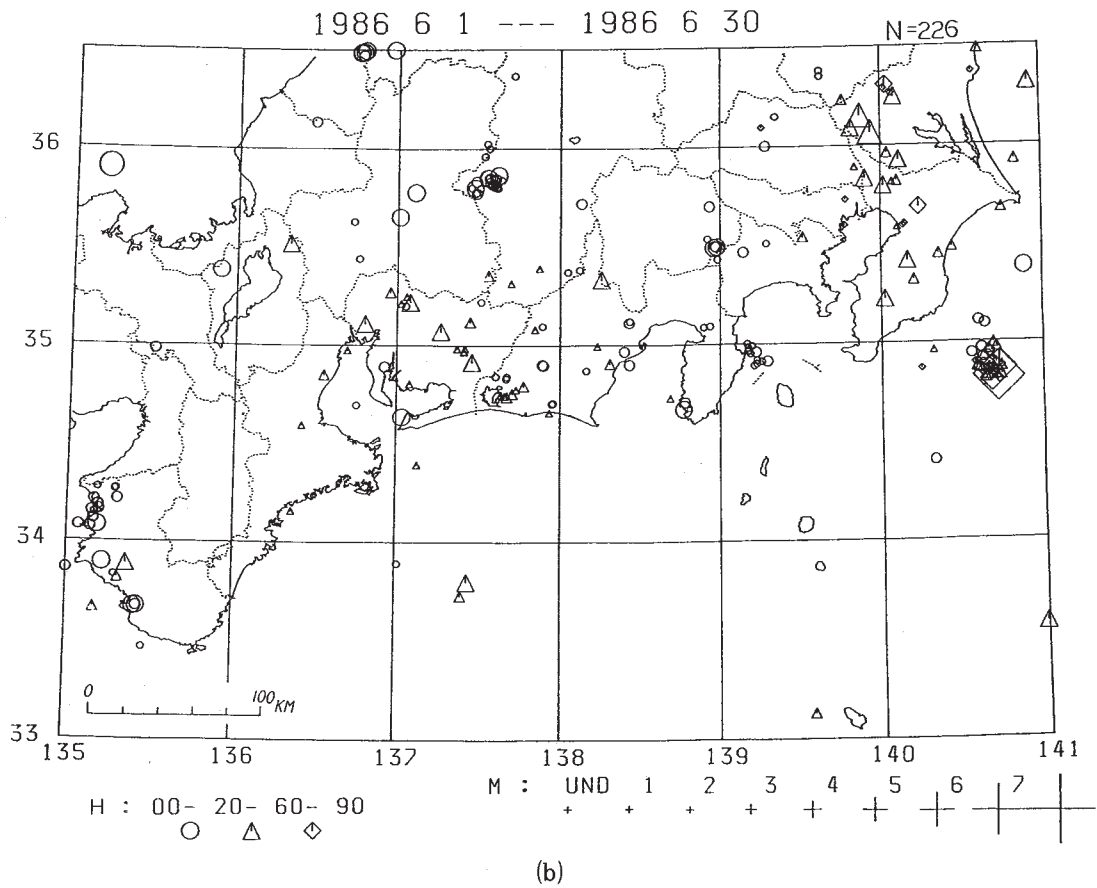
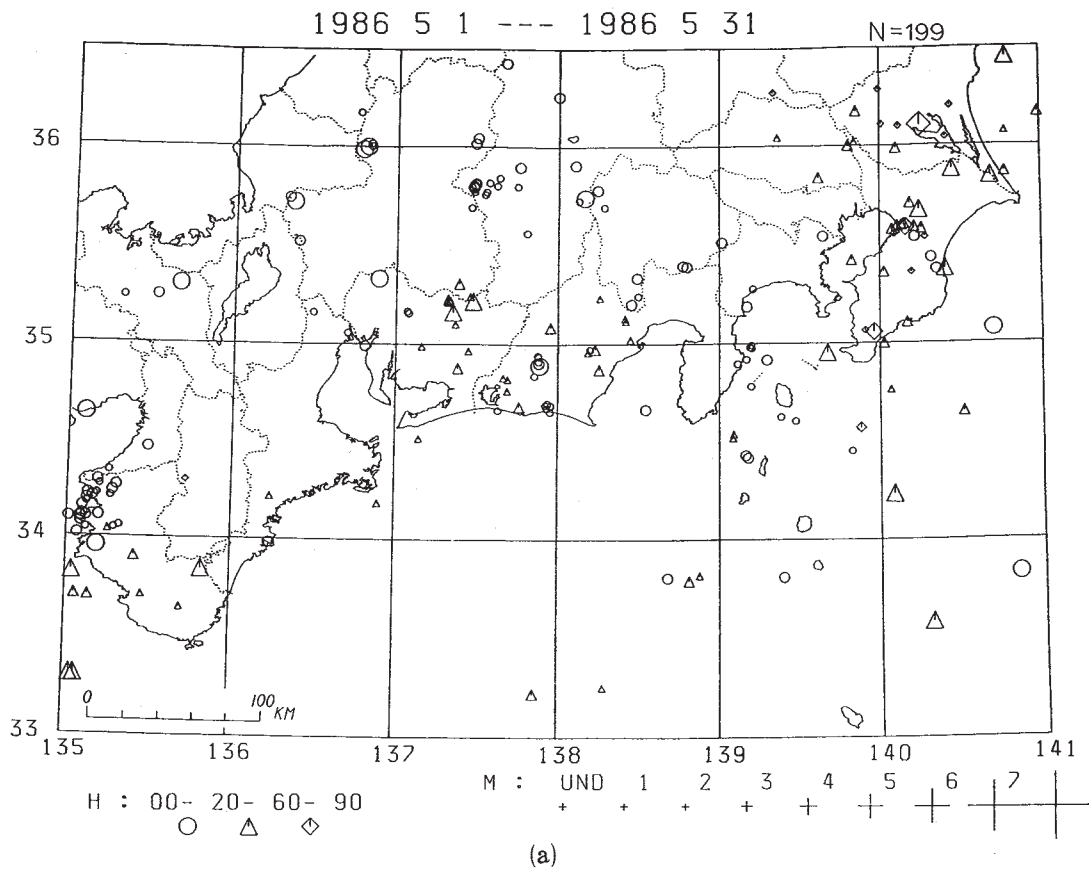
第1図(a)～(f)は1986年5月から10月までの東海・南関東地域における震源の深さ90km以浅の月別震央分布であり、第2図(a)・(b)は5月～7月と8月～10月の3か月間の震央分布である。この期間、特に注目された地震活動としては、6月24日の房総半島南東沖のM6.5の地震、8月23日～9月23日頃にかけての長野県東部の地震活動（Mの最大4.9・8月24日）、10月10日～29日頃の伊豆半島東方沖の群発地震（Mの最大4.8・13日）などがあった。これらの活動についてはそれぞれ別項で述べる。

東海地域では、この期間静岡県西部から愛知県にかけての地域とその沖合いで地震が多く発生したが、M4.0以上の地震は起こっていない。また、静岡県に比べ愛知県でのM3.0以上の地震の多さが目立った。本年3月中旬から静岡県西部（春野付近）でやや活発化した地震活動は5月上旬にほぼ収まった。駿河湾とその付近では、7月16日00時00分にM3.2（深さ39km）が湾口少し南沖で、8月20日12時40分にM3.3（深さ26km）が湾内で発生した。浜名湖付近では小さな地震が散発的にあった（Mの最大3.1・10月6日）。

周辺域では、前述の地震活動のほか、丹後半島沖の6月3日の地震（M4.7）、石川・富山県境の6月9日～10日にかけての地震活動（Mの最大3.8・9日）、東海道はるか沖の6月20日の地震（M3.3）、神奈川県西部（小田原付近）の7月9日の地震（M4.1）、長野県西部地震の余震活動（Mの最大4.4・8月19日）、山梨・静岡県境の9月2日の地震（M3.6）、伊豆大島とその付近の9月11日～12日にかけての地震活動（Mの最大4.0・11日）、松代付近の9月20日～10月上旬前半にかけての地震活動（Mの最大3.4・20日）などが目をひいた。

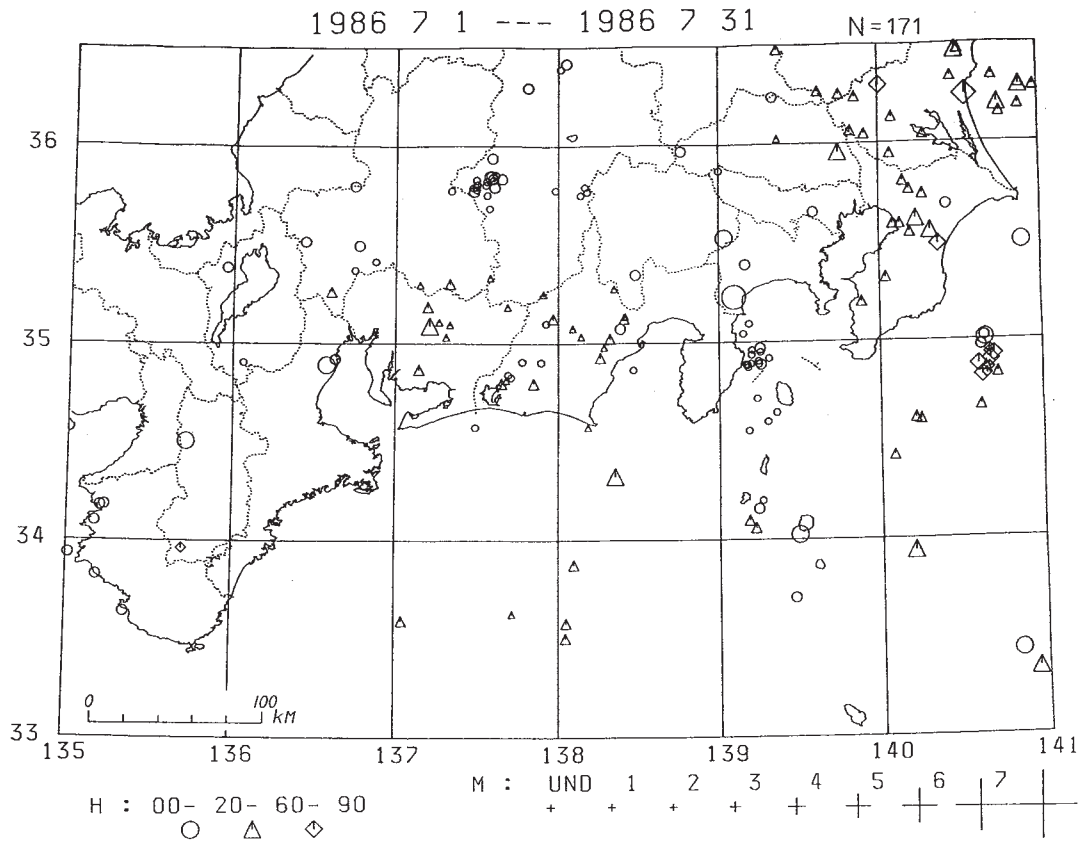
第3図は1986年1月から6月までの半年間の震央分布を示したものである。

第4図(a)～(c)は、東海地方における地震活動の変化を図示したもので、(b)は(a)に示すA・B・Cの3地域について、最近4年間のM-Tプロット、放出エネルギーおよび地震回数の積算値を示したものである。(c)は伊豆地方を中心としたC地域についての拡大図である。用いた地震は、東海常時監視網で震源が求められたもののうち、震源の深さが60km以浅の地震すべてである。M-TプロットはM3.0以上の地震のみとした。放出エネルギーの積算では、(b)の場合 1×10^{20} エルグ、(C)の場合 1×10^{21} エルグに達するとリセットされるようになっているため、その回数を示す数字（R付記）も掲示した。昨年11月以降については、AおよびB地域では特に大きな変化は認められないが、C地域では本年10月10日頃の伊豆半島東方沖の群発地震により、その回数が非常に多くなっている。しかし、小さい地震が多いため、エネルギー的にはそれ程大きな活動とはなっていない。

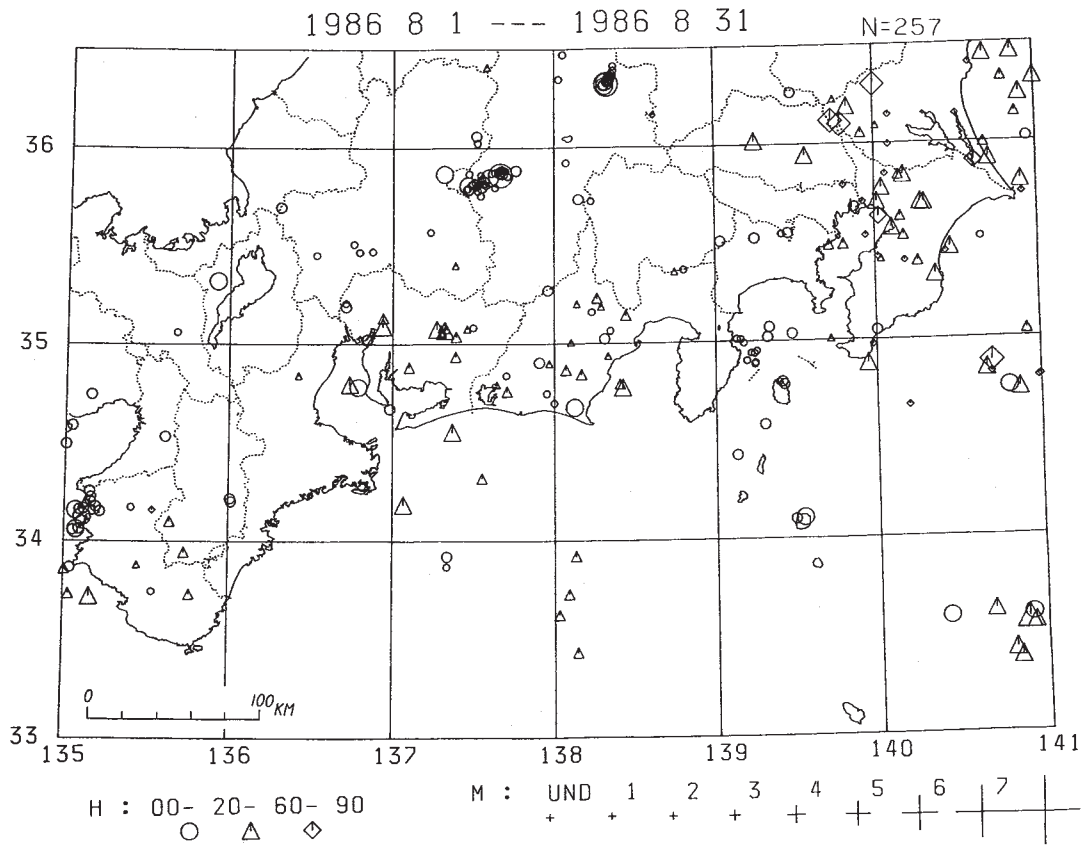


第1図(a)~(f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (1986年5月~10月)

Fig. 1 (a) - (f) Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, May -October, 1986.



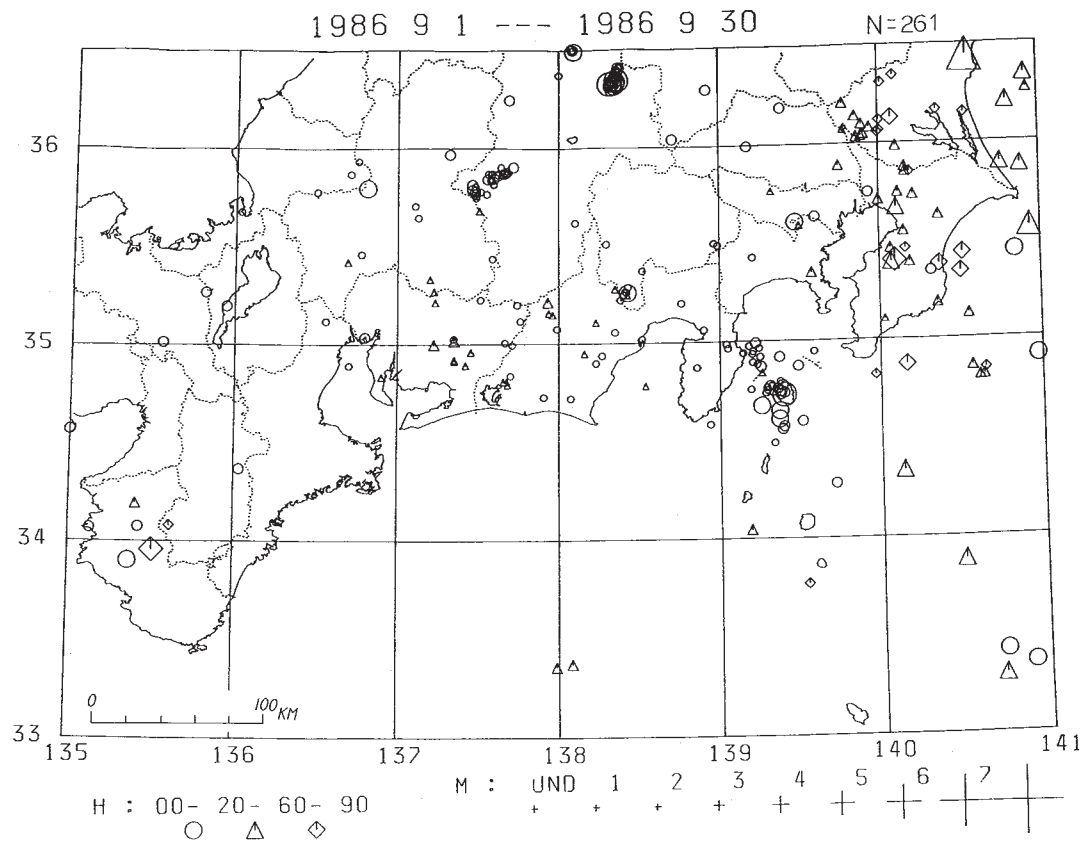
(c)



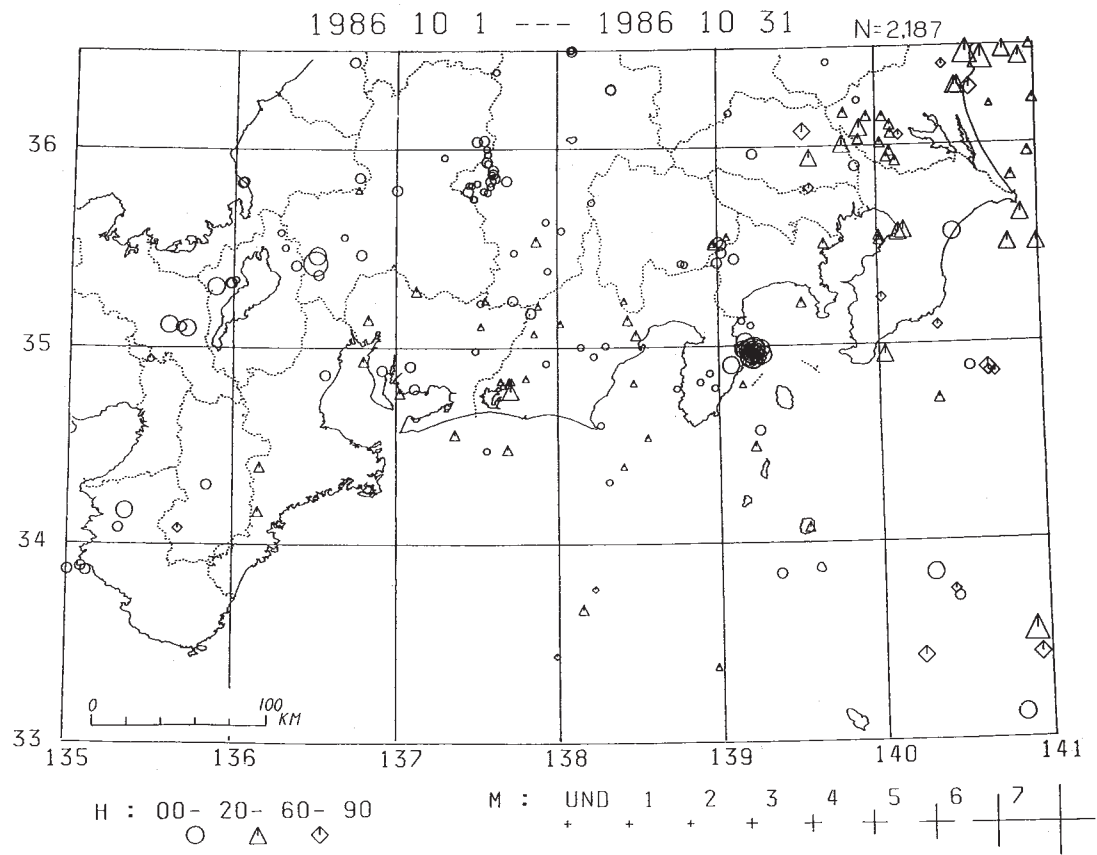
(d)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



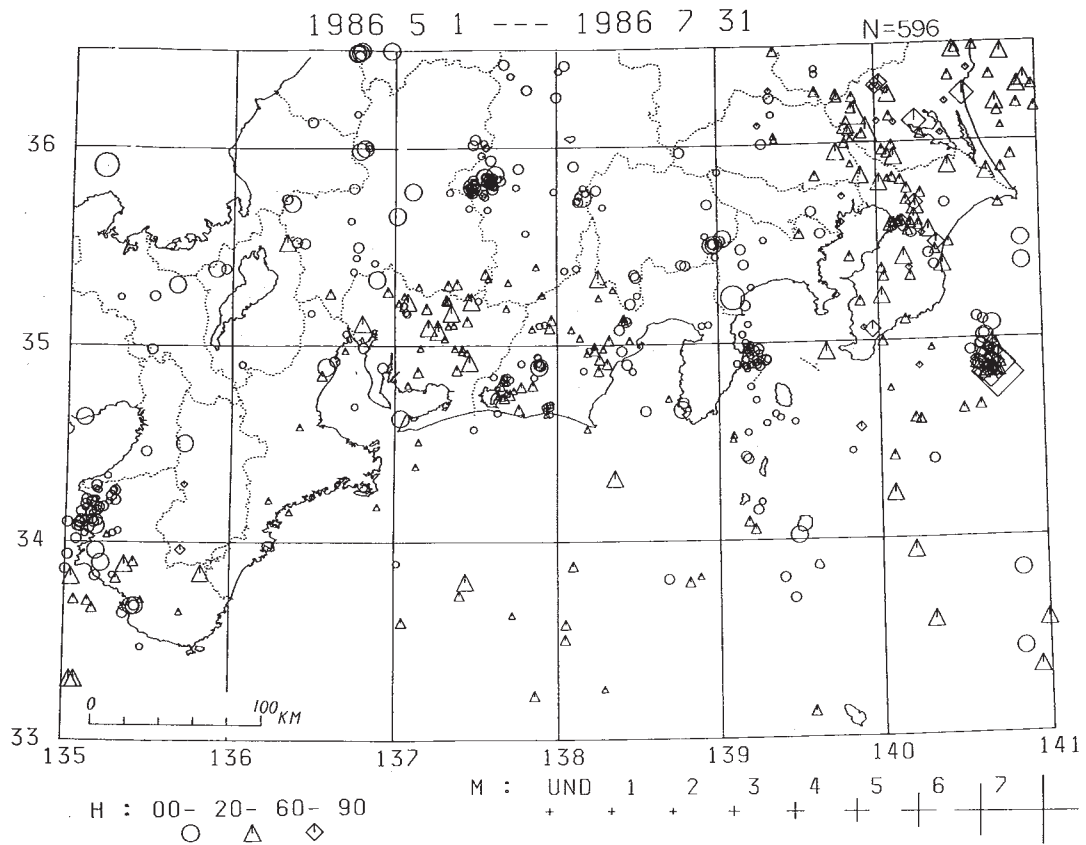
(e)



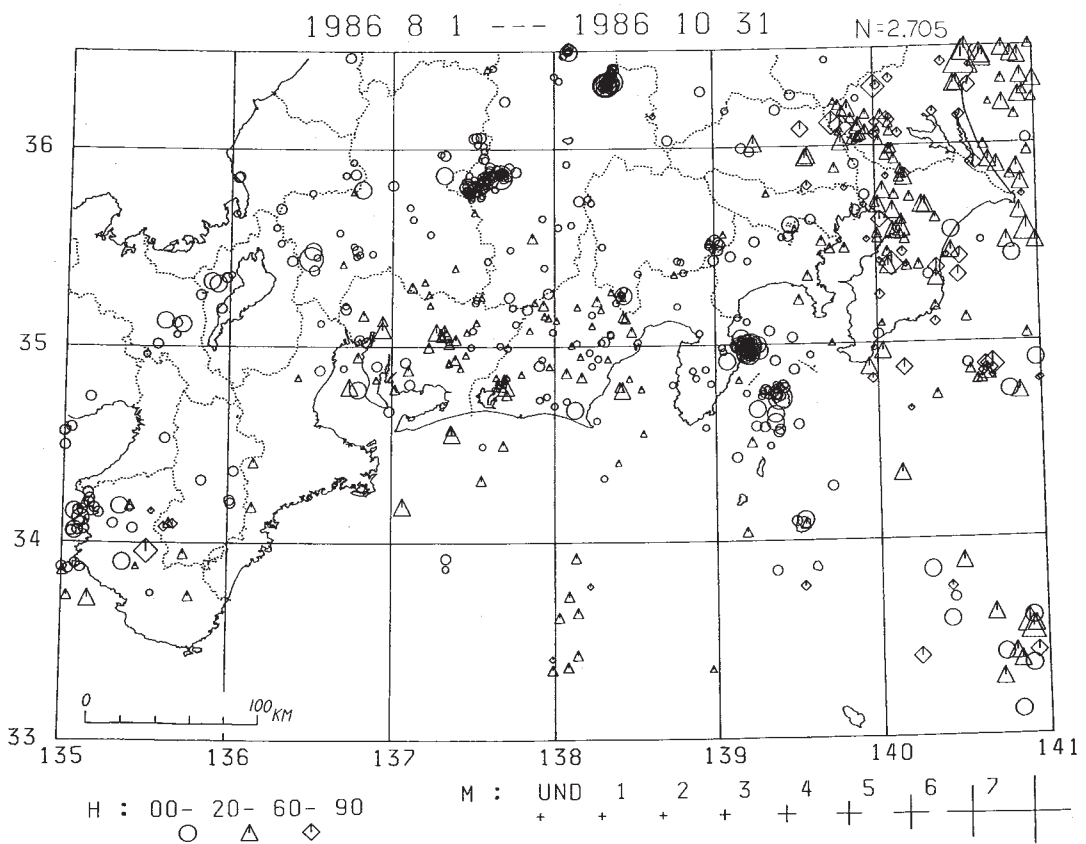
(f)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



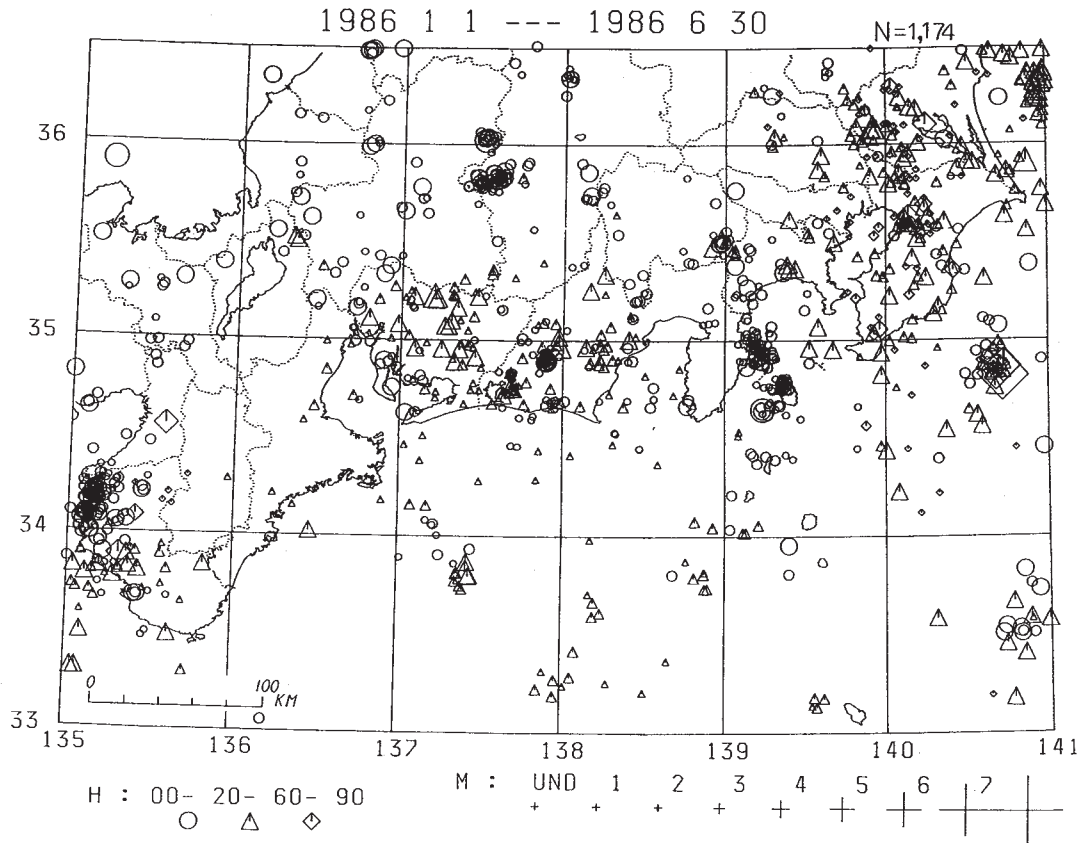
(a) 1986年5月～7月



(b) 1986年8月～10月

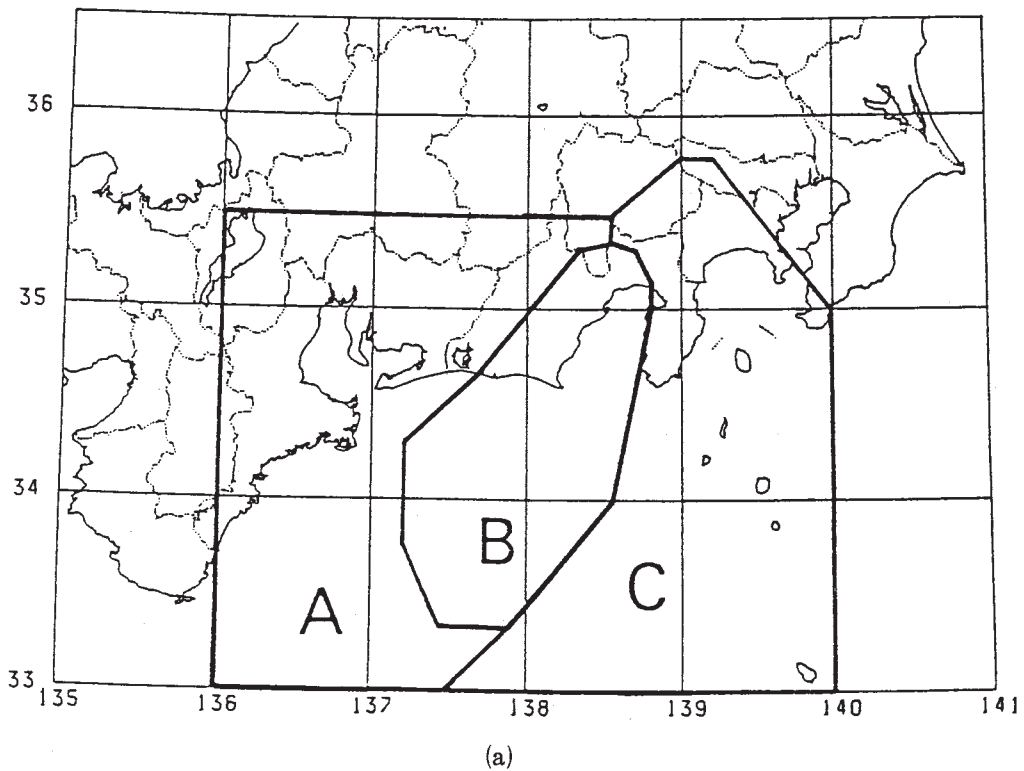
第2図 (a), (b) 東海・南関東地域に発生した地震の3か月毎の震央分布

Fig. 2 (a) and (b) Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts in for (a) May - July and (b) August - October, 1986.



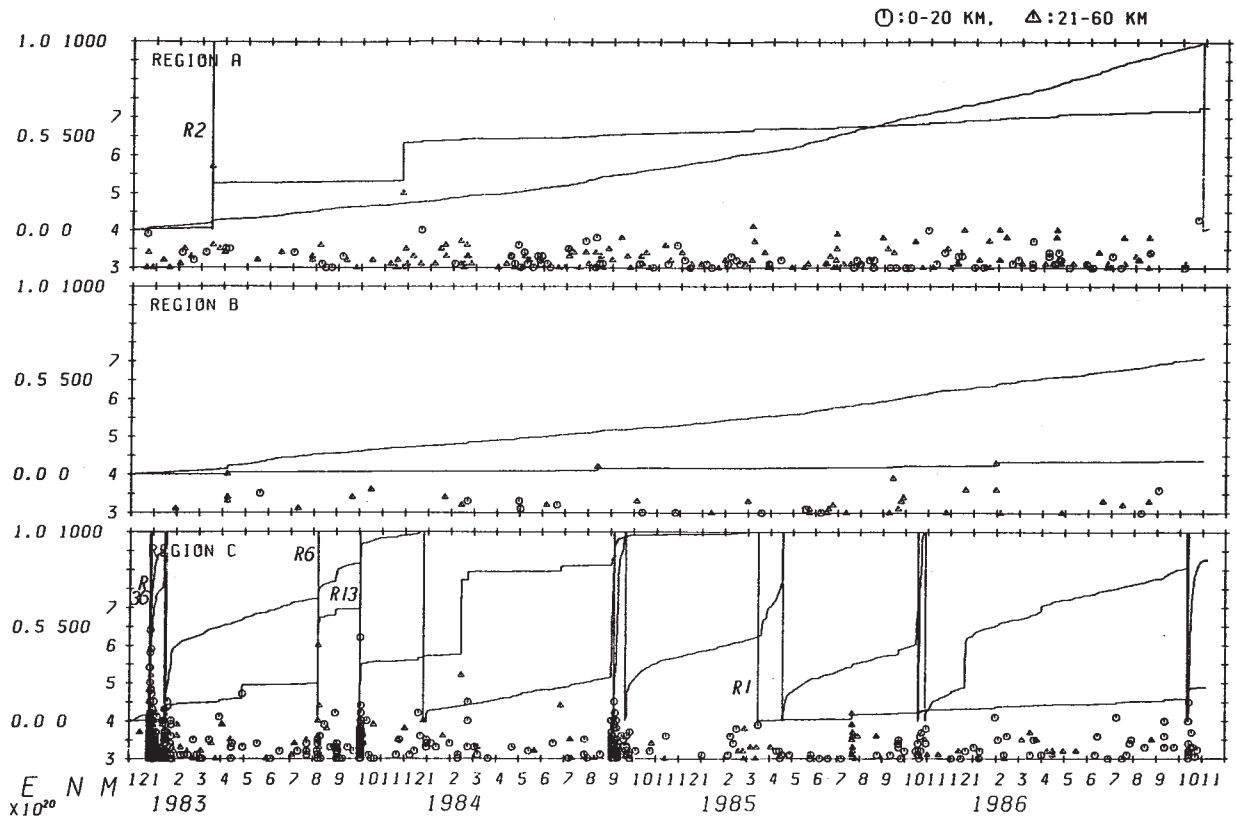
第3図 1986年1月～6月に東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for January - June, 1986.

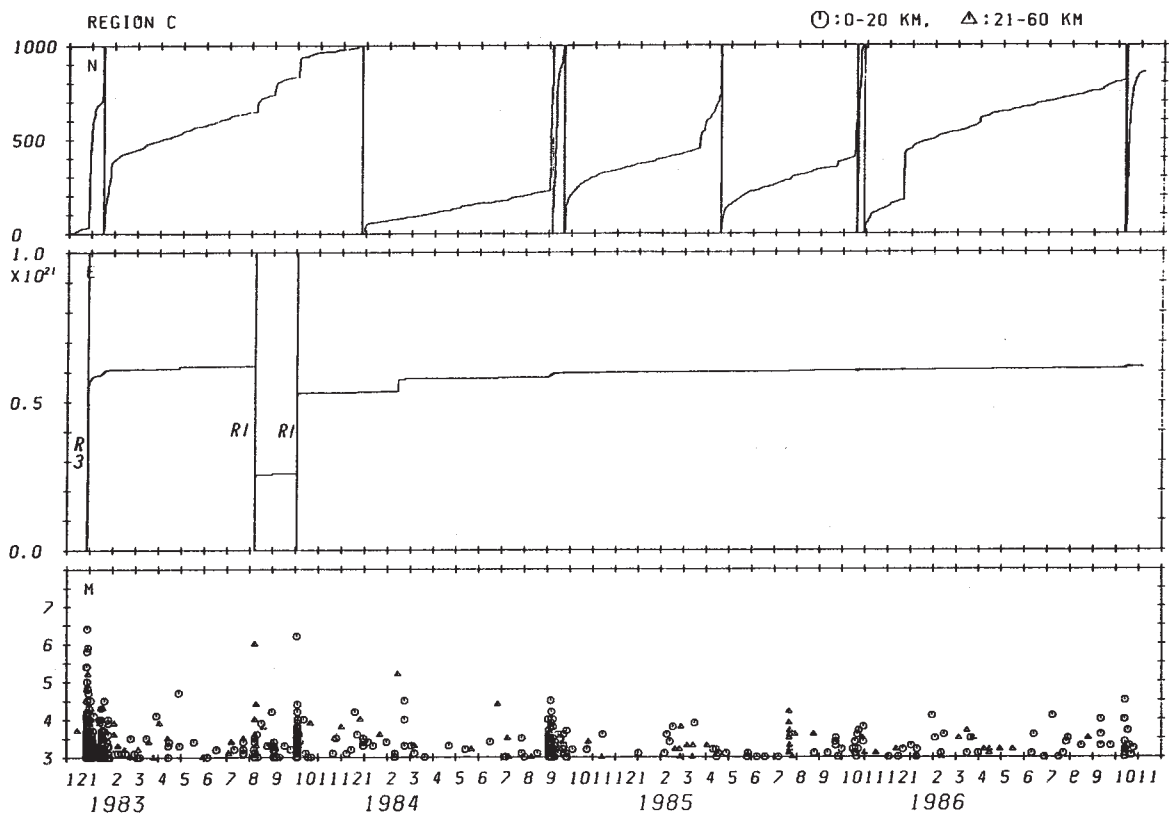


第4図 (a), (b), (c) 東海地方における地震活動の変化

Fig. 4 Seismic activity in regions A, B, C shown in Fig. (a), December, 1982 - November, 1986. Fig. (b) shows three parameters, that is, accumulated frequencies (smoothly ascending curve), accumulated energy release (stepwise ascending curve), and magnitude (circles and triangles) for regions A, B and C. As the lowest figure of (b) for region C is so complicated, three parameters for the region are given separately in Fig. (c) with different energy scale.



(b)



(c)

第4図 つづき

Fig. 4 (Continued)